

第2次あげお子ども読書プラン実施状況表

第1章 子どもが読書に親しむための推進体制の整備

	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性	
1	家庭・地域・学校と図書館の連携がスムーズに進むように、コーディネートを行う	家庭・地域・学校と図書館の連携がスムーズに進むように、コーディネートを行う	①	子どもの本や読書活動についての調査・研究・公表を行う	引き続き、今年度末までの家庭・地域・学校の子どもの読書プラン進捗状況調査回答シートを作成し、公表した。	・今年度末までの家庭・地域・学校の子どもの読書プラン進捗状況をまとめた。	引き続き、今年度末までの家庭・地域・学校の子どもの読書プラン進捗状況をまとめた。	昨年度末までの家庭・地域・学校の子どもの読書プラン進捗状況をとりまとめ、図書館HPで公開する。	
			②	学校と図書館のパイプ役を努める	・引き続き、「読書パスポート」の配布、「あっぱいぶつくるセット本」の巡回、団体貸出等の連携事業に加え、司書教諭やアッピースマイル学校図書館支援員向けの学校図書館運営に係わる講座を2回実施 ・「赤木かん子さんの学校図書館の作り方～魅力ある自然科学の棚づくり～」を開催 司書教諭・学校図書館支援員参加者 41人 ・「本の修理の基本を学ぼう」講座を開催 参加者 18人	・「読書パスポート」の配布、「あっぱいぶつくるセット本」の巡回、団体貸出等の連携事業を実施した。 ・アッピースマイル学校図書館支援員向けの学校図書館運営に係わる研修を8回実施した。 ・支援センター相談員が、各学校図書室を回り、配架や選書の相談を受けた。 小学校22校 中学校11校	引き続き、 ・「読書パスポート」の配布、「あっぱいぶつくるセット本」の巡回、団体貸出等の連携事業を実施した。 ・アッピースマイル学校図書館支援員向けの学校図書館運営に係わる研修を5回実施した。 ・支援センター相談員が、各学校図書室を回り、配架や選書の相談を受けた。希望校 小学校18校、中学校3校 ・市民、アッピースマイル学校図書館支援員向け講座「本の修理」を企画⇒新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	引き続き、学校図書室の充実のための情報提供やアッピースマイル学校図書館支援員への研修・助言を密にし、学校との連携を図る。	
			③	家庭・地域・学校の本や読書活動に関するニーズを収集し、図書館の児童サービスの向上につなげる	講座・イベント終了時に参加者にアンケート調査を行い、今後のサービスにつなげるよう検討した。	・講座・イベント終了時に参加者にアンケート調査を行い、実施してもらいたい講座などの要望を把握し、今後のサービスにつなげる。	・原市公民館図書室の利用者のニーズに応じ、書棚のレイアウト変更をした。 ・原市公民館図書室の選書は調べ学習や学校の学習のニーズにあったものを選んだ。 ・講座・イベント終了時に参加者にアンケート調査を行い、利用者の意向に沿った講座を行うよう検討した。	引き続きアンケート調査を実施し、今後の児童サービスの向上につなげる。	
			④	子どもの本に関するボランティアの紹介と、それを必要とする団体などとの橋渡しをする	学校朝読書、公民館などの求めに応じ、AYYレンジャー(読み聞かせボランティア)の情報などを紹介し、活動につなげた。	・学校朝読書、公民館などの求めに応じ、情報を提供した。	学校朝読書などの求めに応じ、情報を提供した。	引き続き、市内各団体の求めに応じ、読み聞かせボランティアの情報を提供する。	
		2	<家庭への支援> 子どもや、子どもを取り巻く大人たちに読書の楽しさを普及する	①	本に関する情報を収集・提供する	・保育所・幼稚園の中で絵本を巡回貸出する「えほんあっぱいぶつくる」事業を開始し、またこの絵本のリストを公開した。 ・学校読み聞かせボランティアの受け入れについてのアンケート調査を行った。	・保育所・幼稚園の中で絵本を巡回貸出する「えほんあっぱいぶつくる」事業を開始し、この絵本のリストを公開した。 ・「おやこでえほんサロン」や読書相談を受け、子供の年齢にあった本の情報を提供をした。	・保育所・幼稚園の中で絵本を巡回貸出する「えほんあっぱいぶつくる」事業を開始し、この絵本のリストを公開した。 ・講座で講師より提供された本のリストの情報を提供した。 ・「おやこでえほんサロン」や読書相談を受け、子供の年齢にあった本の情報を提供した。	引き続き、子どもの読書活動支援センターが推奨する本のリストの作成を行い、家庭・学校・地域に向けて提供する。
				②	子どもや青少年向け読書イベントを開催する	<支援センター子ども向けイベント> ※おはなし会を除く 年間 4回、参加者 大人56人、子供75人	<支援センター子ども向けイベント> ※学校で行った分、おはなし会を除く 年間 3回 参加者 大人34人、子供58人	<支援センター子ども向けイベント> ※学校で行った分、おはなし会を除く 実施計画 年間 4回 実施回数 年間 3回 参加者 大人15人、子供56人	子供が本に興味をもってもらえるようなイベントを計画・実施する。
				③	保護者向け読書講演会や講座を開催する	<支援センター保護者向け事業> 年間 2回、参加者 大人119人、子供8人	<支援センター保護者向け事業> 年間 4回 参加者 大人69人	<支援センター保護者向け事業> 年間 3回、参加者 大人52人	子供の読書習慣は、保護者が果たす役割が大きいため、保護者自身が読書に対する関心を高める講座を開催する。
		3	<地域への支援> 読み聞かせボランティア、家庭児童文庫や子どもの読書活動推進団体を支援し、これらと連携して地域とともに「読み聞かせのまちあげお」を実現させる	①	読み聞かせボランティア養成や資質向上のための講座を開催する	<支援センターボランティア向け事業> 年間 2回、参加者 42人 <学校応援団への支援センター職員の講師派遣> 年間 1回、参加者 7人 <読み聞かせボランティア団体・中学生ボランティアへの支援センター職員の講師派遣> 年間11回、参加者 78人 <他館との連携での支援センター職員の講師派遣> 年間 1回、参加者 40人	<支援センターボランティア向け事業> 年間 4回 参加者 69人 <学校応援団への支援センター職員の講師派遣> 年間 2回 参加者 24人	<支援センター読み聞かせ募集> 「読み聞かせボランティア募集～小さな子供向けのおはなし会を一緒にやってみませんか～」 参加者 12人 研修 4回 講座受講 3回 <支援センターボランティア向け事業> 年間 3回、参加者 52人 <学校応援団への支援センター職員の講師派遣> 年間 2回、参加者 27人	・引き続き、活動中のボランティアの資質向上につながる講座や事業を開催する。
					②	読み聞かせボランティアの活動場所を確保する	ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した。 年間22回	・ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した。 年間 23回	・ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した回数 年間 23回 <ボランティア協力> 支援センターおはなし会 年間 2回 「親子でえほんサロン」 年間 10回
				③	読み聞かせボランティアへの本に関するアドバイスを行う	<支援センターのアドバイス事業> ・講座以外で子どもの本に関する相談を受けた。 年間12回 ・「広報あげお」平成29年4月号に、相談業務のPR記事を掲載した。	<支援センターのアドバイス事業> ・講座以外で子どもの本に関する相談を受け付けた。 年間 12回 ・「広報あげお」平成30年5月号に、相談業務のPR記事を掲載した。	<支援センターのアドバイス事業> ・講座以外で子どもの本に関する相談を受け付けた回数 年間 4回 ・「広報あげお」令和元年6月号に、相談業務のPR記事を掲載した。	様々な団体に対して「広報あげお」や市ホームページを活用して読み聞かせの相談や読書相談について、支援センターが支援できることをPRする。
				④	家庭児童文庫の支援を行う	平成29年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の3家庭児童文庫に交付 ・文庫活動 シラコバ団地自治会 ・おひさま文庫 ・富士見団地自治会児童図書	・平成30年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の3家庭児童文庫に交付した。 文庫活動 シラコバ団地自治会 おひさま文庫 富士見団地自治会児童図書	令和元年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の3家庭児童文庫に交付 ・文庫活動 シラコバ団地自治会 ・おひさま文庫 ・富士見団地自治会児童図書	引き続き、児童文庫や子どもの読書活動推進する団体に支援する。

	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性	
1	子どもの読書活動支援センターの役割	家庭・地域・学校の連携のコーディネート	<学校への支援> 学校や学校図書館の充実を図り、朝読書や読書タイム、学校の授業で読み聞かせや本の紹介を行う	図書館（子どもの読書活動支援センター）	平成29年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の3団体に交付 ・サイエンスの杜ワンダーワンダー ・児童文学朗読会実行委員会 ・あげお児童えほん研究会	平成30年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の2団体に交付した。 ・サイエンスの杜ワンダーワンダー ・児童文学朗読会実行委員会	令和元年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の3団体に交付 ・サイエンスの杜ワンダーワンダー ・児童文学朗読会実行委員会 ・あげお児童えほん研究会	引き続き、児童文庫や子どもの読書活動推進する団体に支援する。	
					・平成29年度えほんあつぱいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 ・平成29年度あつぱいぶつくるセット本の活用 小学校 92回 8,280冊 中学校 44回 1,320冊 合計 136回 9,600冊	・平成30年度えほんあつぱいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 ・平成30年度あつぱいぶつくるセット本の活用 小学校 84回 7,560冊 中学校 44回 1,320冊 合計 128回 8,880冊	・令和元年度えほんあつぱいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 ・平成31年度あつぱいぶつくるセット本の活用 小学校 88回 7,920冊 中学校 44回 1,320冊 合計 132回 9,240冊	小・中学校は、学校公開などで宅配日が振替休日になることが多い。休校日調査や学校行事などを把握して、円滑に「あつぱいぶつくるセット本」が、円滑に学校間を回るような運営を図る。	
					・司書教諭・学校図書館支援員研修 「赤木かん子さんの学校図書館の作り方 魅力ある自然科学の棚づくり」を開催 司書教諭・学校図書館支援員参加者 41人 ・「本の修理の基本を学ぼう」講座を開催 参加者 18人 ・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・連絡を行った。8回	・アップスマイル学校図書館支援員向けの学校図書館運営に係る研修を8回実施した。 ・各学校図書室を回り、配架や選書の相談を受けた。 小学校22校 中学校 11校	・アップスマイル学校図書館支援員向けの学校図書館運営に係る研修を5回実施した。 ・各学校図書室を回り、配架や選書の相談を受ける。 希望校 小学校18校 中学校3校	アップスマイル学校図書館支援員の即戦力になる講座、研修、情報提供を行い、それぞれの学校図書館で活躍できることを目指す。	
					学校主催の読み聞かせボランティア初心者講座などへ講師を派遣する	学校主催の読み聞かせボランティア初心者講座への講師派遣を行った。 中央小学校 1回 参加者 7人 東小学校 1回 参加者 18人	学校主催の読み聞かせボランティア初心者講座への講師派遣 2回 中央小学校 1回 参加者 7人 東小学校 1回 参加者 20人	学校での読み聞かせを定着させるためには、その地域で活躍する読み聞かせの学校応援団や保護者の協力が不可欠である。 小・中学校長を通じて支援センターが学校応援団の育成の支援ができるよう周知していく。	
2	読書活動の推進(子どもの読書活動に関わる関係各課)	1	図書館、読書活動推進に関わる関係各課で、(仮称)子どもの読書活動推進連絡会を開催する	1	① 連絡会を開催する ・連絡会の設置 ・子どもの読書活動推進計画の進捗状況の把握	関係各課の、子どもの読書プラン進捗状況の把握を行った。	・連絡会は未設置だが、引き続き関係各課と連携し子どもの読書プラン進捗状況の把握を行った。	引き続き、検討する。	
					④ 学校に出向いての読書イベントを開催する	読書イベント 2回実施 ・「全校おはなし会『とんでもない!』」 芝川小学校 全校児童 560人 教職員 3人 合計 563人 ・「富士見小学校5年生ブックトーク」 富士見小学校 5年生 117人	・読書イベントを実施した。 1回 ・「全校おはなし会」を実施した。 芝川小学校 全校児童 560人	読書イベント 1回実施 ・「全校おはなし会」 芝川小学校 全校児童 560人	普段図書館にこない子供たちや、読書習慣のない子供たちが、学校で読書イベントをすることで、本に興味を持ってもらうため、積極的に学校に対し周知をしていく。
3	図書館・学校・学校図書館の連携	1	(仮称)図書館・学校・学校図書館連絡会の開催	1	① 連絡会を開催する ・連絡会の設置 ・司書教諭と図書館司書との情報交換 ・学校図書館と図書館との連携	・連絡会は未設置 ・学校図書館支援員に対する研修を行うほか、積極的に学校に出向き相談を行うなど連携を図った。	・連絡会は未設置 ・学校図書館支援員に対する研修を行い、支援員は学校図書館で必要な知識を深めた。	引き続き、検討する。	
					① 連絡会を開催する ・連絡会の設置 ・読み聞かせボランティア相互の交流や情報交換 ・スキルアップ	第1回 読み聞かせボランティア会議を開催した。 参加者 10人	・読み聞かせボランティア会議を開催した。 参加者 6人	読み聞かせボランティア会議を計画した。 ⇒新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。	引き続き、連絡会を開催し、図書館とボランティア、またボランティア相互の情報交換を図る。
4	読み聞かせボランティア相互の情報交換	1	(仮称)読み聞かせボランティア連絡会の開催	1	② 読み聞かせボランティア養成や資質向上のための講座を開催する	<支援センターボランティア向け事業> 年間 2回、参加者 42人 <学校応援団への支援センター職員の講師派遣> 年間 1回、参加者 7人 <読み聞かせボランティア団体・中学生ボランティアへの支援センター職員への講師派遣> 年間 11回、参加者 78人 <他館との連携での支援センター職員の講師派遣> 年間 1回、参加者 40人	<支援センターボランティア向け事業> 年間 4回 参加者 69人 <学校応援団への支援センター職員の講師派遣> 年間 2回 参加者 24人	<支援センター読み聞かせ募集> 「読み聞かせボランティア募集～小さな子供向けのおはなし会を一緒にやってみませんか～」 参加者 12人 研修 4回 講座受講 3回 <支援センターボランティア向け事業> 年間 3回、参加者 52人 <学校応援団への支援センター職員の講師派遣> 年間 2回、参加者 27人	引き続き、対象者のニーズに合った事業を行う。
					③ 読み聞かせボランティアの活動場所を確保する	ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した。 年間22回	・ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した。 年間 23回	・ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した。 年間 23回 <ボランティア協力> 支援センターおはなし会 年間 2回 「親子でえほんサロン」 年間 10回	引き続き、児童文庫や子どもの読書活動推進する団体に支援する。

第2章 読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性	
1	図書館の役割	豊富な「本」と児童サービスに関する「経験」で「読み聞かせのまち あげお」を支える	① 図書館児童室を居心地の良いフロアにするよう努める。青少年コーナーについては、友人同士など複数で気軽に来館し、滞在を楽しむことができるような仕掛けづくりをする	図書館	・展示コーナーや掲示物など、児童が関心を示すような工夫をし、また児童が入りやすいような声掛けなどを行った。	・展示コーナーや掲示物など児童が関心を示すような工夫をし、また児童が入りやすいような声掛けなどを行った。	・展示コーナーや掲示物など児童が関心を示すような工夫をし、また児童が入りやすいような声掛けなどを行った。	・児童が関心を示すようなフロアづくりを計画したい。	
			② 児童書・児童サービスに関する県主催の専門研修(年5回開催)などに積極的に参加し常に職員のスキルアップに努める		引き続き、埼玉県図書館協会が主催の専門研修(全5回)に出席し、職員のスキルアップに努めた。 平成29年度職員2名参加	埼玉県図書館協会主催の専門研修に出席し、スキルアップに努めた。 【実績】 職員2名、非常勤職員1名が全5回に参加	引き続き、埼玉県図書館協会主催の専門研修に出席し、スキルアップに努めた。 【実績】 職員2名、非常勤職員1名が全5回に参加	研修で学んだ知識を事業に生かせるように、今後も専門研修に参加し、スキルアップに努める。	
			③ 良い本を子どもや保護者と結び付けることができるよう努める		引き続き、展示や「こどもしつだより」などテーマを決め、さまざまな本の紹介をした。	・展示やこどもしつだよりなどテーマを決め、さまざまな本の紹介をした。	引き続き、展示や「こどもしつだより」などテーマを決め、さまざまな本の紹介をした。	本の展示の工夫で、利用が少なかった本が貸出されることがあるので、子供たちが興味を持つ展示をし、良い本を多く紹介したい。	
			④ 図書館や本に興味を持てるように読書相談や読み聞かせ・読書イベントなどを行う		「子ども読書の日」に併せた本のクイズ、夏休み期間中の科学遊びや体験図書館員、秋の図書館まつりでの児童向けのイベントを通じて、子供たちに読書のきっかけになるようなイベントの企画を行った。 参加者 244人	・子ども読書の日に併せた本のクイズ、夏休み期間中の科学遊びや体験図書館員、秋の図書館まつり、クリスマス会等の児童向けのイベントを通じて子ども達に読書のきっかけになるようなイベントを行った。 【実績】 参加者 190人	「子ども読書の日」に併せた本のクイズ、夏休み期間中の体験図書館員、秋の図書館まつり、クリスマス会等の児童向けのイベントを通じて子ども達に読書のきっかけになるようなイベントを行った。 【実績】 参加者 185人	子供たちが、図書館や本に興味を持ってくれるような、イベントになるように検討する。	
			⑤ 学校やほかの教育施設と連携を図り、よりよい読書環境をつくる		引き続き、学校から依頼を受け調べ学習に役立つ本を提供した。 平成30年3月末市内小・中学校 43校利用 976冊	・学校から依頼を受け調べ学習に役立つ本を提供した。 【実績】 市内小・中学校延べ30校利用 526冊	引き続き、学校から依頼を受け調べ学習に役立つ本を提供した。 【実績】※令和2年3月末 市内小・中学校 延べ20校利用 398冊	更に、学校などの教育施設と連携を取り学習に役立つ本を提供する。	
	資料の充実	子どもが感性を磨き、表現力や想像力を高め、知的欲求を満たすことができる魅力ある蔵書を構築する	① 利用者の需要や児童向け書籍の出版状況を把握して、魅力ある資料をバランスよく収集する	最新の出版された本を中心に、絵本、読物や調べ学習に役立つ本を収集した(平成30年3月末 3,263冊)。	・最新の出版された本を中心に絵本、読物や調べ学習に役立つ本を収集した。 【実績】 3,089冊	最新の出版された本を中心に絵本、読物や調べ学習に役立つ本を収集した。 【実績】※令和2年3月末 2,900冊	新刊本の中から子供たちにとって良い本を収集できるように、実際に手に取って内容を確認したり、情報収集や研究に努める。		
			② 子どもの調べものや読書案内に的確に対応できるよう資料収集に努める	最新の出版された本を中心に絵本、読物や調べ学習に役立つ本を収集した(平成30年3月末 3,263冊)。	・最新の出版された本を中心に絵本、読物や調べ学習に役立つ本を収集した。 【実績】 3,089冊	最新の出版された本を中心に絵本、読物や調べ学習に役立つ本を収集した。 【実績】※令和2年3月末 2,900冊	調べ学習のテーマを早目に把握し、それに対応できる本を購入する。		
			③ 電子書籍など新たな資料について研究し、児童室での利用において紙媒体での提供より利点が多い分野について導入を検討する	今後検討	・(仮)北上尾館の整備に対し電子書籍導入に向け検討したが、整備に至らなかった。	今後検討	他市町村の状況をみながら、引き続き検討する。		
			④ 青少年世代が直面する人生のさまざまな課題について思索を深めたり、さまざまな切り口の読書体験を通して読書の多様性を実感できる資料を充実させる	新しく出版された本や、ここ数年で出版された本を中心に、幅広い分野の資料を収集した(平成30年3月末 716冊)。	・新しく出版された本や、ここ数年で出版された本を中心に、幅広い分野の資料を収集した。 【実績】 613冊	新しく出版された本や、ここ数年で出版された本を中心に、幅広い分野の資料を収集した。(令和2年3月末606冊)	次年度も継続する。		
			⑤ 青少年コーナーを公民館図書室にも置き、青少年図書を買・量ともに充実させる	・効率よく資料を配分するため、利用状況の確認を行った。 ・利用の少ない分館(平方)から青少年コーナーを引き上げ、利用の多い館(大石)の資料を充実させることを検討した。	・利用の多い分館(大石)の資料の充実を図るため、棚の引き抜き等を行った。 ・利用の少ない分館(平方)から青少年コーナーを引き上げについて検討した。	・利用の多い分館(大石)の資料の充実を図った。 ・公民館図書室の特色を考慮し、蔵書の充実を図る。	引き続き、各公民館図書室の特色を考慮した蔵書を図る。		
	3	年代別サービス	乳幼児向けサービスの向上を図る	① 妊婦教室などで赤ちゃんの絵本に関する啓発パンフレットを配布する ・ブックスタート事業を継続する ・「あかちゃんおはなし会」を開催する ・東保健センターを会場に、子どもの読書活動支援センターが「おやこでえほんサロン」を開催する	健康増進課	引き続き、4か月児健康診査会場において、ブックスタート事業を実施した。 月2回・年間24回	・4か月児健診の会場にて、ブックスタート事業を実施した。 月2回 年間24回	・4か月児健診の会場において、ブックスタート事業を実施(月2回、H31年4月から令和2年2月までの年間22回)した。 ・令和2年3月実施予定の2回は新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。	次年度も継続する。
				引き続き、ブックスタート事業として4か月検診の際、絵本2冊と赤ちゃん向けのブックリストを渡している(平成30年3月末 1,531人) 赤ちゃんおはなし会を月1回実施(平成30年3月末 265人)		・ブックスタート事業として4か月検診の際、絵本2冊と赤ちゃん向けのブックリストを配布した。 ・あかちゃんおはなし会を月1回実施した。 【実績】 ブックスタート参加者 1,412人 あかちゃんおはなしかい延べ参加者 366人	引き続き、ブックスタート事業として4か月検診の際、絵本2冊と赤ちゃん向けのブックリストを渡した。またあかちゃんおはなし会を月1回実施した。 【実績】※令和2年3月末 ブックスタート参加者 1,374人 あかちゃんおはなしかい参加者 268人	次年度も継続する。	
		幼児・小学生向けサービスの向上を図る	① 市内各館(室)で未就学児から小学生を対象とした「えほんのじかん」「おはなし会」を開催する	図書館	引き続き、市内全館で実施している。 平成30年3月末、おはなし会 2,111人 えほんのじかん 1,089人	・市内全館で実施した。 【実績】 おはなし会参加者 1,776人 えほんの時間参加者 934人	引き続き、市内全館で実施した。 【実績】※令和2年3月末 おはなし会参加者 1,444人 えほんの時間参加者 537人	次年度も継続する。	
					② 子どもたち一人ひとりを本と結びつけるために、図書館職員がフロアワークやブックトークを行う	引き続き、展示やイベントを通じて本の紹介を行った。 展示 年間5回 本にまつわるクイズやクリスマス会などのイベント 年2回	・展示やイベントを通じて本の紹介を行った。 ・本にまつわるクイズやクリスマス会などのイベントを行った。 【実績】 展示回数 5回 イベント回数 2回	引き続き、展示やイベントを通じて本の紹介を行った。また本にまつわるクイズやクリスマス会などのイベントを行った。 【実績】※令和2年3月末 展示回数 5回 イベント回数 2回	次年度も継続する。

	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度				
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性			
1	図書館	3	年代別サービス	3	青少年向けサービスの向上を図る	① 学校に向いて直接生徒に本の魅力を伝える、ブックトークの充実や多様な参画の形態を工夫した青少年向け取組を実施する	・ブックトークや青少年向けイベントは未実施 ・4月に「Next Generation増刊号」として、人気の高い本のランキングや新しく受け入れた本を掲載し、興味を持ってもらえるように働きかけた。	・ブックトークや青少年向けイベントは未実施。	ブックトークや青少年向けイベントは未実施	青少年が本に興味を持ってもらえるよう、ブックトークや青少年向け事業の事例研究を行い、実施に向け検討する。またSNSの活用や電子書籍の導入を検討する。	
						② 中学生の社会体験事業や、高校生のインターンシップの受入を実施し、図書館に対する意識を高めてもらう	他事業との関係で回数を限定したが、中学生の社会体験事業(1回3名)の受入を行った。	・中学生の社会体験事業の受入を行った。 【実績】 2回 6人	中学生の社会体験事業(3回7名)の受入を行った。	対応可能な範囲で来年度以降も継続して受入を行う。	
						③ 中高生が主体的にかつ双方向のコミュニケーションを図れるような情報紙づくりや読書に関わるイベントを企画運営、参加できる仕組みをつくる	・本館青少年コーナーの投稿箱に投稿されたおすすめ本の紹介文を展示した。 ・「Next Generation」の発行に合わせてtwitterで展示テーマの紹介を発信した。	・本館青少年コーナーの投稿箱に投稿されたおすすめ本の紹介文を展示した。	・本館青少年コーナーの投稿箱に投稿されたおすすめ本の紹介文を展示した。	・投稿箱は引き続き実施する。大規模なイベントは難しいが、読書に親しめるような取組を検討する。 ・twitterなどICTの活用を図る。	
						④ 市内小・中学校と図書館をオンラインで結び、生徒が学校で市立図書館の本の予約・貸し出しなどができるようにするなどを検討する	今後検討	・検討中。	今後検討	・市内小・中学校と図書館は採用しているシステムが統一されていないため、どう結び付けるかが今後の検討課題となる。 ・図書館から小中学校に貸し出す本、「あっぴいぶつくるセット本」を学校のシステムで、各児童生徒に貸し出せるようにすることを関係各課と検討する。	
	4	図書利用に障害のある子どもへのサービス	1	図書利用にどのような障害をもつかを把握しニーズに対応した適切な支援を行う	① 障害児や保護者、教員が必要とする資料や機器を収集・整備し、活用を図る	点字つき絵本など、さわる絵本の購入をした。 点字付き11冊	・障害のある子どもやその保護者、教員が必要とする資料を収集した。 【実績】 購入資料数 9冊	障害のある子どもやその保護者、教員が必要とする資料を収集した。 【実績】 購入資料数 21冊	・次年度も継続する。 ・電子書籍の導入を検討する。		
					② 日本語を母語としない子どもたちの状況とニーズを把握、外国語の図書資料などの収集に努める	外国語が母語となる利用者に対応できるよう、絵で見て分かる日本の生活習慣に関する本の購入に努めた。 10冊購入	・外国語が母語となる利用者に対応できるよう、絵で見てわかる日本の生活習慣に関する本の購入に努めた。 【実績】 購入資料数 5冊	外国語が併記されている絵本、知識の本の購入に努めた。 【実績】 購入資料数 21冊	・次年度も継続する。 ・電子書籍の導入を検討する。		
					③ 1 乳児期	① 優しくたくさん語りかけ、一緒に絵本やわらべうたを楽しむ	・ブックスタート事業で配布されたブックリストや「えほんのきろく」などを参考に、親子で本に親しむ ・「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン」に参加する	ブックスタートをきっかけに、0歳児から絵本を楽しむことができることに気づき、「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン」では、親子でわらべうたや絵本を楽しんだ。 参加者 大人131人、子供265人(あかちゃんおはなし会) 大人148人、子供162人(おやこでえほんサロン)	・ブックスタートをきっかけに0歳児から絵本を楽しむことができることに気づき、あかちゃんおはなし会やおやこでえほんサロンでは親子でわらべうたや絵本を楽しんだ。 【実績】 あかちゃんおはなし会参加者 大人184人 子供 182人 おやこでえほんサロン参加者 大人120人 子供122人	・ブックスタートをきっかけに0歳児から絵本を楽しむことができることに気づき、あかちゃんおはなし会やおやこでえほんサロンでは親子でわらべうたや絵本を楽しんだ。 【実績】 あかちゃんおはなし会参加者 大人131人 子供 137人 おやこでえほんサロン参加者 大人52人 子供55人	乳児期に絵本やわらべうたで話しかける事で、保護者とのコミュニケーションを取ることができ、本を媒体として家族で相互理解を深める事ができる。
					2 幼児期	① 多くの絵本を読み聞かせる 図書館の読み聞かせなどに参加する	① 「えほんのじかん」「おはなし会」などに参加して、集団でおはなしを聞く楽しさを味わう	・乳児期より「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン」などに参加していた子供たちが幼児期になり、自分で絵本を読む楽しさや、自分の好きな絵本を選んで読む楽しさを紹介した。 ・「えほんのじかん」や「おはなし会」では、子供が主体的に参加し楽しんだ。 ・参加時に「えほんのきろく」に押すスタンプが周知できた。 参加者 大人409人 子供680人(本館・分館絵本の時間)	・えほんのじかんやおはなし会を開催にあたり、乳児期にあかちゃんおはなし会やおやこでえほんサロンに参加していた子供の参加を促した。 【実績】 「えほんのじかん」開催数 121回 参加者 933人 「おはなし会」開催数 335回 参加者 2,265人	「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン」に参加していた子供たちが成長し、「えほんのじかん」や「おはなし会」に参加できるようになり、少し長い絵本を聞くことができた。 【実績】 「えほんのじかん」参加者 537人 「おはなし会」参加者 1,444人	乳児期に比べると子供自身の好きな本ができ、主体的に「えほんのじかん」や「おはなし会」に参加している。「えほんのきろく」のスタンプを集めることも楽しみのひとつになるため、家族でおはなし会に参加してもらえるようにしたい。
2	家族	1	少年期	① 「読書パスポート」を活用して親子で本に親しむ	・「読書パスポート」を通して、本について親子で話す時間を作る ・図書館や学校で発行する「本の紹介」などを利用してさまざまな本に出会う	・新1年生に配布される「読書パスポート」を活用して、自分で好きな本を選んで楽しんでいる様子が見受けられた。 ・調べ学習などでの本の活用も増えた。 読書パスポート配布数 1,826人(新1年生)	・自分で好きな本を選び、本を読む楽しさを知る。 【実績】 読書パスポート配布数 1,825人(新1年生)	自分で好きな本を選び、本を読む楽しさを知る。友人との会話の中で人気の本を知り、自分も読んでみたいと思うようになり、学校図書館や図書館で借りた。 【実績】 読書パスポート配布数 1,746人(新1年生)	・乳児期～小学校低学年の子どもたちが絵本に親しむことは、概ね達成されている。 ・今後は小学校高学年の子どもたちが引き続き読書に親しんでもらえるよう、さらに学校・地域の働きかけを行っていく。		
				② 4 青年期	① 「いつでもどこでも本が手に取れる」環境づくりを進める	・読書活動を通じた子どもの成長を温かく見守る ・大人も読書に積極的に親しむ姿を見せる	中学生、高校生が図書館を利用する際に、大人も図書館の本を利用していることを確認し、読書の楽しさを共有している。	・様々な興味が広がる時期であり、本と関わりが希薄になりがちな中学生・高校生を念頭に、大人も子供も楽しめる棚づくりを検討した。	中学生は「あっぴいぶつくるセット本」で本を読める環境づくりを行った。しかし中学生・高校生は、さまざまな興味が広がる時期である事や進学などで、読書への関心が低い状況のままである。	青少年が抱える問題の解決につながる本や関心の高い本の収集に努める。また電子書籍の導入を図る。	
				1	市立幼稚園・市立保育所・子育て支援センターの図書の充実を図る	① 幼稚園・保育所・子育て支援センター内の図書冊数、内容の充実を図る	保育所毎に、定期的に絵本の見直しを行い、内容の充実を図っている。	・保育所毎に定期的に絵本の見直しを行い、内容の充実を図った。	保育所毎に定期的に絵本の見直しを行い、内容の充実を図った。	保育所の絵本と合わせてあっぴいぶつくる本を活用し、様々な絵本と出会う機会を作っていく。	
② 図書館の団体貸出・あっぴいぶつくる本、図書のリサイクルを活用し、図書の充実を図る	平成29年度は、あっぴいぶつくる本を活用し、様々な絵本に触れる機会となった。	・あっぴいぶつくる本の活用の定着に共同で取り組み、様々な絵本に触れる機会を作った。	貸し出し頻度の高い絵本の増冊及び関連シリーズの絵本を新規購入し、冊数、内容の充実を図った。			新しい絵本についての情報収集や購入希望絵本のリスト化を行い、順次取り入れていく。					
					① 幼稚園	子供の実態に合わせ、不足している図書を計画的に購入した。	・物語を中心に新たな絵本を購入し、内容の充実を図った。				
					② 保育所	年間合計5回、あっぴいぶつくる本を活用した。 ・図書のリサイクルも活用し、図書の充実を図った。	・あっぴいぶつくる本や図書リサイクル本、幼稚園の絵本を自由に貸し出しや閲覧ができる教室を設定した。	貸し出しや閲覧が自由にできる教室の絵本を季節ごとに入れ替えたり、様々な絵本を目向けられるよう、頻繁に陳列を変えたりするなどして、貸し出し図書の充実を図った。	季節ごとの入れ替えを継続し、おすすめ絵本のコーナー設置や本の置き方の工夫をし、興味を持ちやすく手に取りやすい環境を整える。		

地域	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性
3	1 幼稚園・保育所・子育て支援センター	1 日々の保育の中でさらに、絵本の読み聞かせを組み込む	①	子育て支援センター	・月2回、絵本・紙芝居・パネルシアター等を楽しむ講座「みんなのおはなし」を開催 ・火曜日を除く開館日の夕方に、絵本等の読み聞かせを実施	・月2回絵本・紙芝居・パネルシアター等を楽しむ講座「みんなのおはなし」を開催 ・火曜日を除く開館日の夕方に絵本等の読み聞かせを実施した。	・月2回絵本・紙芝居・パネルシアター等を楽しむ講座「みんなのおはなし」を開催 ・火曜日を除く開館日の夕方に絵本等の読み聞かせを実施	継続して実施する予定。
				保育所	落ち着いた環境の中で、絵本に親んでもらえるよう、場所や時間など工夫して、取り組んでいる。	落ち着いた環境の中で、絵本に親んでもらえるよう、場所や時間など工夫して、取り組んだ。	落ち着いた環境の中で、絵本に親んでもらえるよう、場所や時間など工夫して、取り組んだ。	絵本に親んでもらえるよう、今後も工夫して取り組んでいく。
				幼稚園	毎日、絵本の読み聞かせをした。	・毎日、降園時に紙芝居や絵本の時間をもった。また、自ら絵本を読んだり、見たりできるコーナーを各教室に設定した。	童話や昔話の他、季節・行事など幼児の興味に即した絵本や紙芝居を扱い、様々なジャンルの話に親しめるようにした。	日々の読み聞かせの時間をゆったりもつようにする。また、幼児が「読んで欲しい」と手に取れる環境の維持に努める。
				子育て支援センター	年2回、子どもの読書活動支援センターに依頼し、「みんなのおはなし」に参加協力によるコラボレーションを実施	・年2回、子どもの読書活動支援センターに依頼し、みんなのおはなしに参加協力によるコラボレーションを実施した。	・年2回、子どもの読書活動支援センターに協力を依頼し、「みんなのおはなし」でのコラボレーションを実施（第2回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）	継続して実施する予定。
				図書館（子どもの読書活動支援センター）	子育て支援センター・あつひいぶつくるコラボ事業「みんなのおはなし with 子どもの読書活動支援センター」の開催 年間2回 参加者 大人33人 子供33人	・子育て支援センター・あつひいぶつくるコラボ事業みんなのおはなしwith子どもの読書活動支援センターを開催した。 【実績】 開催 年間 2回 参加者 大人34人 子ども37人	子育て支援センター・あつひいぶつくるコラボ事業「みんなのおはなし with 子どもの読書活動支援センター」の開催 年間1回 参加者大人10人子ども10人 (新型コロナウイルス感染拡大防止の為1回中止)	要望に応じて、人形劇やおはなし会を開催する。
				保育所	保育所ごとに、ボランティアによる素話や読み聞かせの会を企画し、子供たちにとって良い経験となった。	・保育所ごとにボランティアによる、素話や読み聞かせの会を企画した。	・保育所毎にボランティアによる、読み聞かせの会を企画し、子どもたちにとって良い経験となった。	引き続き事業を企画し、絵本に親しむ機会を作っていく。
	2 子どもが絵本に親しむ環境をつくる	② 図書館職員やボランティアによる人形劇やおはなし会を取り入れる	子育て支援センター	年2回、子どもの読書活動支援センターに依頼し、「みんなのおはなし」に参加協力によるコラボレーションを実施	・年2回、子どもの読書活動支援センターに依頼し、みんなのおはなしに参加協力によるコラボレーションを実施した。	・年2回、子どもの読書活動支援センターに協力を依頼し、「みんなのおはなし」でのコラボレーションを実施（第2回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）	継続して実施する予定。	
			図書館（子どもの読書活動支援センター）	子育て支援センター・あつひいぶつくるコラボ事業「みんなのおはなし with 子どもの読書活動支援センター」の開催 年間2回 参加者 大人33人 子供33人	・子育て支援センター・あつひいぶつくるコラボ事業みんなのおはなしwith子どもの読書活動支援センターを開催した。 【実績】 開催 年間 2回 参加者 大人34人 子ども37人	子育て支援センター・あつひいぶつくるコラボ事業「みんなのおはなし with 子どもの読書活動支援センター」の開催 年間1回 参加者大人10人子ども10人 (新型コロナウイルス感染拡大防止の為1回中止)	要望に応じて、人形劇やおはなし会を開催する。	
			保育所	保育所ごとに、ボランティアによる素話や読み聞かせの会を企画し、子供たちにとって良い経験となった。	・保育所ごとにボランティアによる、素話や読み聞かせの会を企画した。	・保育所毎にボランティアによる、読み聞かせの会を企画し、子どもたちにとって良い経験となった。	引き続き事業を企画し、絵本に親しむ機会を作っていく。	
			幼稚園	夕涼み会で、やぎさん一座を招き、紙芝居を上演した。	・保護者や小学生、小学校の司書教諭による絵本の読み聞かせを行った。 ・劇団員による人形劇や職員による劇を実施した。	劇団員や職員による劇の実施をした。	パネルシアターやエプロンシアターなどの視聴覚教材を有効に活用し、幼児がお話の世界を好きになったり、親しみをもったりできるようにする。	
			子育て支援センター	希望する利用者に絵本の貸し出しを随時実施 ・適宜、絵本の読み聞かせの重要性を啓発	・希望する利用者に絵本の貸し出しを随時実施した。 ・適宜、絵本の読み聞かせの重要性を啓発した。	・随時、希望する利用者に絵本の貸し出しを実施 ・適宜、絵本の読み聞かせの重要性を啓発 ・利用者のニーズにあった絵本の紹介・選定	継続して実施する予定。	
			図書館（子どもの読書活動支援センター）	図書館へ来ない保護者へも、読書相談を受けることで、身近に本のある環境をつくり、読み聞かせの重要性を伝えた。	・保育所にある「えほんあつひいぶつくる本」を通じて、本をあまり読む習慣のない保護者が、本に興味を持ち、親子で本を楽しむ機会を作れるようになった。	本をあまり読む習慣がない保護者が、保育所にある「えほんあつひいぶつくる本」を読むことによって、親が本に興味を持ち、親子で本を楽しむ事や家読ができる環境を作った。	読み聞かせをしたり、子供と一緒に本を読んだり、図書館に行くことの楽しさ・大切さを伝える。	
1 幼稚園・保育所・子育て支援センター	3 保護者に対する絵本の啓発を行う	① 保護者へ絵本の貸し出しや、年齢に合わせた絵本の紹介を行う。懇談会などに乳幼児期の読み聞かせの重要性についての内容を組み込み、啓発を行う	保育所	・保育室内に絵本の紹介コーナーを作り、お勤めの絵本を飾るなど、保育所ごとに保護者に関心を持ってもらえるように工夫を行った。 ・あつひいぶつくる本の貸し出しも好評で、親子で関心が高い様子があった。	・保育室内に絵本の紹介コーナーを作り、お勤めの絵本を飾るなど、保育所ごとに保護者に関心を持ってもらえるように工夫した。 ・あつひいぶつくる本の貸し出し環境を整え、子どもたちの楽しみにつなげた。	・保育室内に絵本の紹介コーナーを作り、お勤めの絵本を飾るなど、保育所ごとに保護者に関心を持ってもらえるように工夫している。 ・あつひいぶつくる本の貸し出しも好評で、楽しみにしている様子がある。	引き続きあつひいぶつくる本等も活用しながら、親子で楽しめるように、貸出用図書の内容の充実を図っていく。	
			幼稚園	懇談会で、保護者に対し、絵本の読み聞かせの重要性を説明した。 ・あつひいぶつくる本を保護者に貸し出し、家庭での読み聞かせを推奨した。	絵本貸し出しができる教室を保護者に開放した。また、新しく買った本を紹介する手紙を配布し、絵本の読み聞かせの啓発を行った。	懇談会で、乳幼児期の読み聞かせの重要性についての内容を組み込み、啓発を行った。	保護者に掲示や配布物などを用いて絵本の紹介や保育中の読み聞かせ時の幼児の様子を伝え、絵本を身近に感じ読み聞かせをすることへの関心を高めるようにしていく。	
			児童館	・青少年育成推進員や読み聞かせの団体などと協力し、読み聞かせやおはなし会などの事業を推進していく ・おはなし会に来た子には、「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押す	・アップーランドとこどもの城では、青少年育成推進員によるおはなし会を実施している。 ・アップーランドではおひさま文庫によるおはなし会こどもの城では読み語りの城を実施している。	・アップーランドとこどもの城では、青少年育成推進員によるおはなし会を実施した。 ・アップーランドではおひさま文庫によるおはなし会こどもの城では読み語りの城を実施した。	・アップーランドとこどもの城では、青少年育成推進員によるおはなし会を実施した。 ・アップーランドではおひさま文庫によるおはなし会、こどもの城では読み語りの城を実施した。	次年度も継続する。

	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性
3 地域	2 児童館・放課後児童クラブ	2 子どもが読書に親しむ環境をつくる	① 日々の生活や遊びの中に、本を読む時間、読み聞かせの時間を設ける	放課後児童クラブ	・日頃の保育の中で読書を実施 ・いくつかのクラブにて読み聞かせを実施	・日ごろの保育の中で読書を実施した。 ・いくつかのクラブで読み聞かせを実施した。	・日ごろの保育の中で読書を実施 ・いくつかのクラブにて読み聞かせを実施	引き続き、保育の中で読書の時間や読み聞かせを取り入れ、子どもたちが図書に触れる機会を増やす。
			② 図書館の団体貸出・図書のリサイクルなども活用し、さらなる図書の充実を図る		・図書リサイクルへ参加した。 ・いくつかのクラブにて団体貸出を利用した。	・図書リサイクルへ参加した。 ・いくつかのクラブで団体貸出を利用した。	・図書リサイクルへ参加した。 ・いくつかのクラブにて団体貸出を利用した。	・引き続き、図書リサイクルに参加し、団体貸出しも積極的に利用したい。 ・寄贈図書を活用し、図書を充実させ、より子どもたちが図書に興味を持つように働きかけたい。
	3 児童文庫・自治会・読み聞かせボランティア	1 図書館と連携し、さらなる図書の充実を図る	① 子どもの読書活動推進事業費補助金の交付を受けたり、図書館の団体貸出・図書のリサイクルなども活用し、さらなる図書の充実、活動の充実を図る	自治会	【しらこぼと団地自治会】 月・水・木・土曜日 15時30分~17時30分 年4回季節のイベント (桃の節句、端午の節句、7月七夕、12月クリスマス)の飾り付けを実施	・子どもの読書活動推進事業費補助金の交付した。 ・小泉地区(小泉サロン)にて、年齢ごとに読み聞かせ本の紹介、読み聞かせ(2冊 0・1・2・3歳対象)を実施した。	・子どもの読書活動推進事業費補助金の交付した。 【しらこぼと団地自治会】 月・水・木・土曜日 15時30分~17時30分 年4回季節のイベント (桃の節句、端午の節句、7月七夕、12月クリスマス)の飾り付けを実施	地域でのおはなし会、読書会の依頼があった場合は、ボランティアの紹介や子どもの読書活動支援センターが行いたい。
			①	児童文庫	【おひさま文庫】 開館日時 月曜日・木曜日 15時~18時 土曜日(月1回) 11時~12時 ・文庫でのおはなし会(育児サークルなど) ・文庫開館(図書貸出、返却、遊び相手など) ・出前おはなし会、読み聞かせ、人形劇 他 上平小、上平北小、原市小、アッピーランド等多数 【富士見団地自治会児童図書】 開館日時 第一、第三土曜日 13時~15時 定期的に読書の啓蒙活動実施	【おひさま文庫】 ・開館日時 月曜日・木曜日 15時~18時 土曜日(月1回) 11時~12時 ・文庫でのおはなし会(育児サークルなど) ・文庫開館(図書貸出、返却、遊び相手など) ・出前おはなし会、読み聞かせ、人形劇 他 上平小、上平北小、原市小、アッピーランド等多数 【富士見団地自治会児童図書】 ・開館日時 第一、第三土曜日 13時~15時 ・読書の啓蒙活動 ・図書購入・貸出	【おひさま文庫】 ・開館日時 月曜日・木曜日 15時~18時 土曜日(月1回) 11時~12時 ・文庫でのおはなし会(育児サークルなど) ・文庫開館(図書貸出、返却、遊び相手など) ・出前おはなし会、読み聞かせ、人形劇 他 上平小、上平北小、原市小、アッピーランド等多数 【富士見団地自治会児童図書】 ・開館日時 第一、第三土曜日 13時~15時 ・読書の啓蒙活動 ・図書購入・貸出	引き続き、図書の充実・活動を図っていく
3 地域	3 児童文庫・自治会・読み聞かせボランティア	2 子どもたちとよい本を結びつける橋渡しとなる	① ・子どもたちにより本を紹介する ・おはなし会に来た子には、「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押す	読み聞かせボランティア	引き続き、 ・子供たちにより本を紹介した。 ・おはなし会に来た子供に「えほんのきろく」「読書パスポート」にスタンプを押す、事業に協力した。	・子供たちにより本を紹介した。 ・おはなし会に来た子供に「えほんのきろく」「読書パスポート」にスタンプを押した。	引き続き、 ・子供たちにより本を紹介し、子供が読書を楽しめる環境を作った。 ・おはなし会に来た子供に「えほんのきろく」「読書パスポート」にスタンプを押した。スタンプを集めることで楽しみを増やした。	引き続き、資質向上に務め、事業に協力していく。
			② 図書館主催のステップアップ講座などに参加するなどして日々研さんを重ね、資質向上につとめる		・子どもの読書活動支援センターの講座等に各自参加した。 参加者178人 ・グループで月1回の定例会で研さんに努めた。	・子どもの読書活動支援センターの講座等に各自参加した。 参加者69人 ・グループで月1回の定例会で研さんに努めた。	・子どもの読書活動支援センターの講座等に各自参加した。 参加者52人 ・グループで月1回の定例会で研さんにつとめた。	引き続き、資質向上に務め、事業に協力していく。
1 学校の役割	1 学校の役割	1 学校図書館教育全体計画・年間指導計画の作成・充実を図る	① 学校図書館教育全体計画・年間指導計画の作成・内容の充実を図り、授業などでの学校図書館の活用を位置づける	学校	引き続き、各小・中学校の教育課程において、学校図書館教育全体計画・年間指導計画を各校で作成し、各教科の指導計画との関連を検討した。	・各小・中学校の教育課程において、学校図書館教育全体計画・年間指導計画を各校で作成し、各教科の指導計画との関連を検討した。	各小・中学校の教育課程において、学校図書館教育全体計画及び年間指導計画を作成し、各教科の指導計画との関連を明らかにした。	各教科の単元と関連付け、計画的な活用を促すとともに、学校図書館教育の推進を図る。
		2 新聞を活用した授業実践の充実を図る	① 司書教諭など研修会を通じて学校図書館に毎日配架されている新聞を活用した授業実践を取り上げ、情報交換を行い、各校での実践に生かせるようにする		引き続き、平成29年度9月から、埼玉中央よみうりで、新聞や閲覧台を活用している上尾市内の各小学校の取組の様子を紹介する記事を掲載した。	・埼玉中央よみうりで、新聞や閲覧台を活用している上尾市内の各小学校の取組の様子を紹介する記事が掲載された。	新聞や閲覧台を活用して児童生徒に新聞を閲覧させる取組が行われた。各校の工夫により、新聞クイズや興味がある記事に付箋を貼るなどの取組について研修会で共有した。	研修会等を通じて、実践事例を共有し、効果的な取組が各校で実践できるように図る。
	1 「学校図書館図書標準」の早期達成をめざす	① ・司書教諭、アッピースマイル学校図書館支援員が中心となり、計画的に図書資料の整備、更新、充実を図る ・学校図書室のスペース拡張の検討、書架の購入	学校	引き続き、 ・計画的に図書の購入等を行うことができた。 ・各校の工夫により、第二図書室の整備、書架の並び替えや配架の変更を行うことができた。	・計画的に図書の購入等を行った。 ・各校の工夫により、書架の並び替えや配架の変更を行った。	計画的に図書の購入等を行うことができた。各校の工夫により、第二図書室の整備、書架の並び替えや配架の変更を行うことができた。	今後も計画的に蔵書の整備、更新を行い資料の充実を図る。	
			①	教育総務課	平成30年度予算で書架購入予算を獲得	・小学校4校、中学校8校に書架を購入した。	小学校3校、中学校3校に書架を購入した	引き続き予算要求し、計画的に書架整備を図る。

	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度			
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性		
4 学校	2 学校図書館の整備	2 司書教諭等研修会の充実を図る	① 学校図書館の充実のために、これまで同様に研修会を実施するとともに、研修会の内容については、更なる読書活動推進のために検討する	指導課 図書館(子どもの読書活動)	・司書教諭等と学校図書館支援員合同の研修会を、年間2回行い、情報交換の場を設けることができた。 ・5月には、学校図書館教育の推進のため、中学校対象に、校長と司書教諭合同の研修会を実施した。	・司書教諭等と学校図書館支援員合同の研修会を、年間2回行った。 ・教科等の指導に即した図書館の活用について周知するとともに、情報交換の場を設けた。	司書教諭等と学校図書館支援員合同の研修会を、4月及び5月に行った。5月の研修会では、教科等の指導における学校図書館の活用について協議するとともに、情報交換の場を設けた。	継続して研修会を実施し、各校の取組を共有し、学校図書館教育の推進を図る。		
					・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・指導・連絡を行った。 8回 (内容例) 学校図書館と学校司書の仕事について 図書分類と配架について 授業に関連したミニ展示、ポップの作成 図書館活動アンケートを実施し「買って良かった！本」の展示会を実施	学校図書館支援員研修会に参加し、助言・指導・連絡をした。 (内容例) 学校図書館と学校司書の仕事について ・LS@schoolの効率の良い使い方 ・あつぴいぶつくるセット本の貸出方法	学校図書館の充実のために、学校支援員がすぐ実践できるような情報を発信する。			
		3 アピースマイル学校図書館支援員の研修会などの充実を図る	① ・学校図書館の充実のために、これまで同様に研修会を実施する ・研修会の内容については、子どもの読書活動支援センターと連携し、更なる読書活動推進を図る	指導課 図書館(子どもの読書活動)	計画に基づき雇用時に3回、前期5回、後期4回の研修を実施した。 ・各校の取組について共有し、広めることができた。	・計画に基づき雇用時に3回、前期5回、後期4回の研修を実施し、各校の取組について共有し、広めることができた。 ・子どもの読書活動支援センター職員を講師として、効果的な研修を実施した。	計画に基づき前期7回、後期3回の研修を実施した。各校の取組について共有し、広めることができた。子どもの読書活動支援センター職員を講師として、効果的な研修を実施することができた。	継続して研修会を計画し、効果的な取組の共有を図る。		
					・司書教諭・学校図書館支援員研修 「赤木かん子さんの学校図書館の作り方」魅力ある自然科学の棚づくり」を開催 司書教諭・学校図書館支援員参加者 41人 ・「本の修理の基本を学ぼう」講座を開催 参加者 18人 ・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・連絡をする 8回	・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・指導・連絡を行った。 8回 (内容例) 学校図書館と学校司書の仕事について 図書分類と配架について 授業に関連したミニ展示、ポップの作成 図書館活動アンケートを実施し「買って良かった！本」の展示会を実施	学校図書館支援員研修会に参加し、助言・指導・連絡をした。 (内容例) 学校図書館と学校司書の仕事について ・LS@schoolの効率の良い使い方 ・あつぴいぶつくるセット本の貸出方法	学校図書館の充実のために、学校支援員がすぐ実践できるような情報を発信する。		
		4 学校	2 学校図書館の整備	4 各小中学校の学校図書館の一層の充実を図り、読書活動を推進するため、支援員の増員に向けて検討を進める	① アピースマイル学校図書館支援員の増員の要望を行う	指導課	支援員増員の要望を行ったが、増員はされなかった。	・支援員増員の要望を行った(結果、増員なし)。	毎年学校図書館支援員増員の要望を行っているが、増員は難しい。	継続して増員を要望する。
				5 学校図書館の掲示・各コーナーの整備・充実を図る	① 司書教諭やアピースマイル学校図書館支援員が中心となり、学校図書館の掲示や新聞の活用、新刊や季節の本の展示コーナーなどの環境の整備・充実を図る	学校	・各校において、定期的に掲示や本の展示が行われ、児童生徒の興味を喚起することができた。 ・季節や行事に合わせたコーナー、教科書で紹介されている本に関するコーナーなども特設され、利用しやすい環境を図った。	・各校において、定期的に掲示や本の展示が行われ、児童生徒の興味を喚起した。 ・季節や行事に合わせたコーナー、教科書で紹介されている本に関するコーナーなどを特設するなど利用しやすい環境を整備した。	各校において、定期的に掲示や本の展示が行われ、児童生徒の興味を喚起することができた。季節や行事に合わせたコーナー、教科書で紹介されている本に関するコーナー、教師や児童生徒のおすすめ本コーナーなども特設され、利用しやすい環境に整備されている。	研修会等を通じて、実践事例を共有し、効果的な取組が各校で実践できるように図る。
6 さらなる学校図書館の情報化を図る	① 市立図書館の蔵書検索が学校図書館管理システムで可能となるか検討する			教育総務課	引き続き、検討中	・システム統合や蔵書検索の連携を検討した。	システム統合や蔵書検索の連携は難しい。	上尾市Webサイト上の上尾市図書館蔵書検索の利用を促し、問題点を検討していく。		
7 長期休業中の学校図書館の開放・活用を図る	① 夏季休業日においては、全校で、開館日数を20日以上としており、取組内容を充実させることにより、さらに利用率を高める 冬季休業中においても学校の実情に合わせて、利用率を高める			学校	・平成29年度から、開館日数を15日以上とした。 ・各校ごとに目標冊数を決めて、事前の貸出も含めて、児童生徒の利用を図った。	・夏季休業日の開館日数を15日以上とし、各校ごとに目標冊数を決めて、事前の貸出も含めて、児童生徒の利用を図った。	働き方改革の観点から、夏季休業日の開館日数の定めをなくし、各校の実態に応じて開館日数を設定するよう変更した。長期休業中の読書活動推進を図るため、休業前の貸出を重点的に行った。	長期休業前に貸出をすることで、利用率の向上と家庭での読書活動の推進を図る。		
3 読書活動の取組	1 朝の読書をはじめとする一斉読書や読み聞かせを充実する		① 引き続き、全校一斉読書活動を実施する 中学校にも小学校での読み聞かせやブックトークなどを紹介し、取組を推進する	学校	・朝読書などの一斉読書は、各小中学校で実施されている。 ・中学校でも読み聞かせを行っている学校がある。	・朝読書などの一斉読書を、各小中学校で実施した。 ・一部中学校でも読み聞かせを行った。	朝読書などの一斉読書が、各小・中学校で実施されている。中学校でも読み聞かせを行っている学校がある。	研修会等を通じて各校の取組を共有し、効果的な取組が実施できるようにする。		
	2 「子ども読書の日」に関する取組の充実・周知を図る		① 引き続き、司書教諭やアピースマイル学校図書館支援員を中心に、研修会などでそれぞれの学校の取組を紹介しながら、取組を充実するとともに、保護者へ「子ども読書の日」を周知する	学校	引き続き、平成29年度も継続して行うことができた。	・継続して実施した。	ポスターの掲示、読み聞かせ、学校図書館利用ガイドスなど、各校で工夫された取組が行われている。	今後も継続し、読書活動の推進を図る。		
	3 「学校応援団」・ボランティアの活用を図る	① 司書教諭等研修会を通じて、情報交換を行い、各校の実践に生かす	学校	読み聞かせや長期休業中の貸出ボランティアなどの協力を得ることができた。	・読み聞かせや長期休業中の貸出ボランティアなどを活用した。	読み聞かせや長期休業中の貸出ボランティアなどの協力を得ることができた。	地域の実態に合わせ、学校応援団やボランティアの活用を促す。			
					「あつぴいぶつくるセット本」の活用については、継続して行うことができた。	・あつぴいぶつくるセット本の活用を継続して行った。	「あつぴいぶつくるセット本」の活用を継続して行うことができた。	継続して事業の円滑な運用を促す。		

	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性
	4 あっぱいぶつくるセット本・団体貸出本の利用	1 図書館と市内小・中学校、市立幼稚園が協力して、市図書館所蔵の読み物セットをすべての小中学校・市立幼稚園に長期間一括貸出する「あっぱいぶつくるセット本」事業を行う	① 事業の円滑な運用を目指す	学校図書館	「あっぱいぶつくるセット本」の活用を継続して行うことができた。	・あっぱいぶつくるセット本の活用を継続して行った。	「あっぱいぶつくるセット本」の活用を継続して行うことができた。	継続して事業の円滑な運用を促す。
				図書館（子どもの読書活動支援センター）	<ul style="list-style-type: none"> 「えほんあっぱいぶつくる」「あっぱいぶつくるセット本」の管理を子どもの読書活動支援センターで行うこととなった。学校の休校などの対応や本の管理など円滑にできた。 平成29年度えほんあっぱいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 平成29年度あっぱいぶつくるセット本の活用 小学校 92回 8,280冊 中学校 44回 1,320冊 合計 136回 9,600冊 	<ul style="list-style-type: none"> えほんあっぱいぶつくる、あっぱいぶつくるセット本の発着を子どもの読書活動支援センターで管理し、学校の休校などの対応や本の管理など円滑にできた。 【実績】 えほんあっぱいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 あっぱいぶつくるセット本の活用 小学校 84回 7,560冊 中学校 44回 1,320冊 合計 128回 8,880冊 	<ul style="list-style-type: none"> 「えほんあっぱいぶつくる」「あっぱいぶつくるセット本」について学校の休校などの対応や本の管理などがある中、円滑に事業を行うことができた。 平成31年度えほんあっぱいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 平成31年度あっぱいぶつくるセット本の活用 小学校 88回 7,920冊 中学校 44回 1,320冊 合計 132回 9,240冊 	破損した本については、新しい本に買い替えをし、事業を継続していく。
			② 市立保育所で同事業を行うことを検討する	読書活動支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から、保育所・幼稚園の中で、絵本を巡回貸出する「えほんあっぱいぶつくる」事業を開始した。 平成29年度えほんあっぱいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 	<ul style="list-style-type: none"> えほんあっぱいぶつくるセット本を活用した。 【実績】 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度えほんあっぱいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 	引き続き、子どもの読書活動支援センターが推奨する本のリスト作成を行い、家庭・学校・地域に向けて提供する。
5 家庭・地域・学校をつなぐ取組	1 まちかど図書館	1 出張おはなし会や出張読書イベントの際に、関連する本を持っていきその場で貸し出しを行う	① 図書館に来たことがなかったり来られなかったりする子どもや保護者にもより身近な場所で図書館の機能を利用してもらう	読書活動支援センター	引き続き、まちかど図書館実施に向けて、図書館システム担当・児童担当・青少年担当等と検討中	未実施	未実施	引き続き、検討していく。
				学校	引き続き、「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着している。	図書館と連携し、セカンドブック事業として新1年生に読み聞かせを実施し「読書パスポート」の利用方法などの説明を子供を通じて行った。	「読書パスポート」は積極的に活用されている。	子どもの読書活動支援センターと連携し、今後も継続して活用を促していく。
		1 「読書パスポート」「えほんのきろく」を家庭で活用し、親子で本についての会話を広げる	① 活用方法について、保護者へ周知する	読書活動支援センター	引き続き、学校や児童館、読み聞かせボランティアを通して保護者への周知を図った。	<ul style="list-style-type: none"> 読書パスポートの活用方法について、配布した子供たちを通して保護者へ伝えるよう周知した。 未就学児にえほんのきろくを使用してもらい、親子で本を読む習慣の周知を行った。 	引き続き、読書パスポート配布時に子供たちに保護者と一緒に使って欲しいを話した。	引き続き、学校や児童館、読み聞かせボランティアを通して周知するようになる。
	学校			「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着し週末読書、家読等を推進している学校がある。	「読書パスポート」を積極的に活用した。	「読書パスポート」は取組が周知され、活用が定着している。週末読書等を推進している学校があった。	研修会等を通じて良い取組を共有していく。	
		2 「読書パスポート」「えほんのきろく」	② 「読書パスポート」「えほんのきろく」を通して、親子で本について、会話を時間をつくってもらう工夫する	読書活動支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着し家庭においても休日にパスポートを使用するようになってきている おはなし会でパスポートを持参した時、児童に家で本について、話をしていることを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読書パスポート」の活用が定着し、親子で図書館にパスポートを持参し本を借りている。 おやこでえほんサロンなどの事業で活用についての説明を行った。 	親子で「読書パスポート」での読書記録300冊をめざしている様子がある。300冊表彰に図書館にくる親子が見られた。	引き続き、図書館、学校がさらに「読書パスポート」「えほんのきろく」をPRし、子供たちに読書習慣が身につくようになる。
	児童館			毎月発行する行事予定表に、記載している。	・毎月発行する行事予定表に記載した。	毎月発行する行事予定表に記載している。	毎月発行する行事予定表に記載している。	
		2 「読書パスポート」「えほんのきろく」	① 活用方法について、地域へ周知する	青少年課	未実施	未実施	未実施	読書パスポート等の良さを周知する方法を検討する。
	読書活動支援センター			引き続き、読み聞かせボランティアの活動や、児童館等を通して、地域への周知を図った。	<ul style="list-style-type: none"> おやこでえほんサロン、おはなし会などの事業で、保護者に対し、読み聞かせボランティアなどから、読書パスポートの活用についての説明を行った 	引き続き、読み聞かせボランティアの活動や児童館等を通して、地域への周知を図った。	引き続き、読み聞かせボランティアや児童館等を通して地域に周知する。	
	読書活動支援センター			引き続き、おはなし会、えほんのじかんの時に「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押し、また、おはなしを聞きに来てくれるような取組を図った。	<ul style="list-style-type: none"> おはなし会、えほんのじかんの時にえほんのきろくや読書パスポートにスタンプを押し、また、おはなし会などの行きたいと思えるように事業への参加意欲を高めた。 	本館、分館、公民館図書室等で行われている「おはなし会」「えほんのじかんの」時に「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押し、また参加したい意欲を高めた。	引き続き読み聞かせを続け、多くの子どもたちや保護者に本の楽しさ、大切さを伝えていく。	
	児童文庫			【おひさま文庫】 おはなし会には未就学児が多いため、「読書パスポート」「えほんのきろく」の利用は少ない。 【富士見団地自治会児童図書】 「読書パスポート」「えほんのきろく」の利用はほとんどない。	【おひさま文庫】 読書パスポート、えほんのきろく共に利用し、えほんのきろくを持っていない子供には配布した。 【富士見団地自治会児童図書】 読書パスポート、えほんのきろく共に利用している子供はいない。	【おひさま文庫】 「読書パスポート」「えほんのきろく」共に利用し、「えほんのきろく」を持っていない子供には配布している 【富士見団地自治会児童図書】 「読書パスポート」「えほんのきろく」共に利用している子供はいない。	引き続き、事業に協力していく。	

	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性	
5 家庭・地域・学校をつなぐ取組	2 「読書パスポート」・「えほんのきろく」	2 「読書パスポート」・「えほんのきろく」を地域で活用し、上尾の読書推進につとめ「読み聞かせのまち あげお」をつくる	② 「読書パスポート」の中の「宝島スタンプラリー」にスタンプが押せる機会をたくさん用意する	児童館	・アッピーランドとこどもの城では青少年育成推進員によるおはなし会を実施した。 ・アッピーランドではおひさま文庫によるおはなし会を実施した。	・アッピーランドとこどもの城では青少年育成推進員によるおはなし会を実施した。 ・アッピーランドではおひさま文庫によるおはなし会を実施した。	・アッピーランドとこどもの城では、青少年育成推進員によるおはなし会を実施した。 ・アッピーランドでは、おひさま文庫によるおはなし会を実施した。	次年度も継続する。	
				青少年課	未実施	未実施	未実施	・上尾市青少年育成推進員協議会が行っている児童館や市内小学校等での読み聞かせの際、読書パスポート等を持参している児童にスタンプを押してもらおう呼びかける。 ・読み聞かせの日程を周知することで児童のスタンプを押す機会を増やす。	
				図書館（子どもの読書活動支援センター）	引き続き、学校や公民館や自然学習館等たくさんの場所で、読み聞かせや講座を開き「宝島スタンプラリー」を活用できるようにした。	・学校や公民館等でたくさんの場所で、読み聞かせや講座を開き「宝島スタンプラリー」を活用できるようにした。	・学校や公民館等でたくさんの場所で、読み聞かせや講座を実施した。 ・原市公民館にて原市放課後子ども教室（火曜日クラス子供11人・木曜日クラス子供22人）工作「ハロウィンの展示作成」ハロウィンおはなし会 図書館まつり「しちょうさん えほんよんで」を開催 ・大石公民館にて大石放課後子ども教室 子供10人 工作「ハロウィンの展示作成」ハロウィンおはなし会 を開催 ・「宝島スタンプラリー」を活用できるようにした。	おはなし会や講座に参加して、宝島スタンプラリーを集めることを楽しみにしている子供たちがいるので、スタンプを押せる機会を作りたい。	
				読み聞かせボランティア	引き続き、図書館や地域でのおはなし会の際に、スタンプを押した。	・図書館や地域でのおはなし会の際にスタンプを押した。	引き続き、図書館や地域でのおはなし会の際にスタンプを押した。	引き続き、事業に協力する。	
				児童文庫	・おはなし会の際にスタンプを押した。	・おはなし会の際にスタンプを押した。	おはなし会の際にはスタンプを押した。	引き続き、事業に協力していく	
				児童館	引き続き、定期的に事業を開催した。	・定期的に事業を開催した。	引き続き、定期的に事業を開催した。	引き続き、定期的に事業を開催する。	
			③ 図書館、児童館、児童文庫、青少年育成団体、放課後児童クラブなどに活用する場を設ける	青少年課	青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つとして、小学校や児童館で、大型紙芝居も使用した読みきかせを開催した。	・青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つとして小学校や児童館で、大型紙芝居も使用した読みきかせを開催した。	青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一環として、小学校や児童館で大型紙芝居も使用した読みきかせを開催した。	青少年育成団体、放課後児童クラブ等のように読書パスポートを活用してもらえるか検討する。	
				図書館（子どもの読書活動支援センター）	引き続き、児童館、児童文庫には、「読書パスポート」に押すスタンプを配布し読み聞かせを行った。 ・児童館、児童文庫に「えほんのきろく」の配布を依頼した。	・児童館、児童文庫には、読書パスポートに押すスタンプを配布し読み聞かせを行った。 ・児童館、児童文庫にえほんのきろくの配布を依頼した。	引き続き、児童館、児童文庫には、「読書パスポート」に押すスタンプを配布し読み聞かせを行った。 ・児童館、児童文庫に「えほんのきろく」の配布を依頼した。	放課後児童クラブなどにも活動を広げるように計画を進めていく。	
				児童文庫	引き続き、おはなし会の際にスタンプを押した。	・おはなし会の際にスタンプを押した。	おはなし会の際にはスタンプを押した。	引き続き、事業に協力していく。	

取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
				実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性
5 家庭・地域・学校をつなぐ取組	2 「読書パスポート」「えほんのきろく」を地域で活用し、上尾の読書推進につとめ「読み聞かせのまち あげお」をつくる	④ 読み聞かせボランティアの協力で出張おはなし会を開催する	児童館	未実施	未実施	未実施	すでに実施しているおはなし会の他に読み聞かせやおはなし会を開催できるかを協議する。
			青少年課	青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つである、小学校や児童館で、大型紙芝居も使用した読み聞かせを開催した。	青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つとして、小学校や児童館で大型紙芝居も使用した読み聞かせを開催した。	青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一環として、小学校や児童館で大型紙芝居も使用した読み聞かせを開催した。	「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一環として、小学校や児童館での読み聞かせを今後も維持継続できるように支援していく。
			図書館(子どもの読書活動支援センター)	引き続き、図書館・子どもの読書活動支援センターで行っている事業のほとんどが、読み聞かせボランティアの協力で、行われている。	図書館・子どもの読書活動支援センターで行っている事業は、主に読み聞かせボランティアの協力で行った。	引き続き、図書館・子どもの読書活動支援センターで行っている事業は、主に読み聞かせボランティアの協力で行われた。	引き続き、読み聞かせボランティアの協力のもと、魅力ある事業を展開する。
			読み聞かせボランティア	子どもの読書活動支援センターと協力して、自然学習館コッホ事業や「おやこでえほんサロン」(東保健センター)で、おはなし会を行っている。	子どもの読書活動支援センターと協力してまなつのこわいおはなし会やおやこでえほんサロンでおはなし会を行った。	子どもの読書活動支援センターと協力して「まなつのこわいおはなし会」や「昔話のおはなし会」「おやこでえほんサロン」でおはなし会を行った。	引き続き図書館、子どもの読書活動支援センター等の事業に協力する。
			児童文庫	【おひさま文庫】 引き続き、小学校への読み聞かせ(上平小、上平北小、原市小)を実施	【おひさま文庫】 ・出前おはなし会 (上平小、上平北小、原市小)	【おひさま文庫】 ・出前おはなし会 (上平小、上平北小、原市小)	引き続き、事業に協力していく
	3 「読書パスポート」を学校で活用し、学校での読書活動を活性化させる ・「読書パスポート」をとおして学校と図書館の連携を強化する	① 図書館、学校、アッピースマイル学校図書館支援員、読み聞かせボランティアが連携して、「読書パスポート」配布おはなし会を市内全小学校で開催し、PRにつとめる	学校	引き続き ・計画通り実施することができた。 ・平成29年度は、学校図書館支援員研修で、本事業に関連した研修を行うこともできた。	読書パスポートは取組が周知され、一部学校では活用が定着し、週末読書や家読等を推進した。	計画通り実施することができた。平成31年度は、学校図書館支援員研修で、本事業に関連した研修を行うことができた。	継続して事業の円滑な運用を促す。
			学校図書館	引き続き、 ・「読書パスポート」配布及びおはなし会の実施については計画通り実施できた。 ・「読書パスポート」は、読書活動の推進に、効果的に活用された。	読書パスポート配布とおはなし会の実施については、計画通り実施した。 ・読書パスポートは、読書活動の推進に、効果的に活用された。	「読書パスポート」配布とおはなし会は計画通り実施できた。「読書パスポート」は、読書活動の推進に、効果的に活用された。	継続して事業の円滑な運用を促す。
			図書館(子どもの読書活動支援センター)	引き続き、 ・連携がスムーズにでき、「読書パスポート」配布及びおはなし会が開催できた。 ・「読書パスポート」の使い方が十分に理解され、学校での活用が進んでいる。1,943人に配布	連携がスムーズにでき、読書パスポート配布おはなし会が開催できた。 ・読書パスポートの使い方が十分に理解され、学校での活用が進んだ。(1,825人に配布)	引き続き、 ・連携がスムーズにでき、「読書パスポート」配布おはなし会が開催できた。 ・「読書パスポート」の使い方が十分に理解され、学校での活用が進んでいる。(新1年生 1,746人に配布)	図書館員が小学校を訪問し、「読書パスポート」の説明、配布することによって学校との連携をとることができ、子供たちも図書館を身近に感じてもらえる。
			読み聞かせボランティア	市内全小学校1年生に、「読書パスポート」配布時に図書館のおはなし会を紹介した。	読書パスポート配布時に、おはなし会を市内全小学校1年生に行った。 ・図書館のおはなし会を紹介し参加を呼びかけた。	「読書パスポート」配布時に、おはなし会を市内全小学校1年生に行うとともに、図書館のおはなし会を紹介し参加を呼びかけた。	引き続き、図書館と協力して「読書パスポート」配布とおはなし会を実施し、PRに務める。
			学校	引き続き、計画に基づいて実施することができた。読み聞かせボランティアの活用についても各校ごとに地域の人材等も活用して行うことができた。	計画に基づいて実施した。 ・読み聞かせボランティアの活用について、各校ごとに地域の人材等も活用した。	計画に基づいて実施することができた。読み聞かせボランティアの活用について、各校ごとに地域の人材等も活用して行うことができた。	継続して事業の円滑な運用を促す。
	② 子どもの読書活動支援センターや読み聞かせボランティアによる学校への出張おはなし会の開催	学校	引き続き、計画通り実施できた。	計画通り実施した。	計画通り実施できた。	継続して事業の円滑な運用を促す。	
		学校図書館					

	取組	目標	施策	主体	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
					実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性
5 家庭・地域・学校をつなぐ取組	2 「読書パスポート」・「えほんのきろく」	3 「読書パスポート」を学校で活用し、学校での読書活動を活性化させる 「読書パスポート」をとおして学校と図書館の連携を強化する	② 子どもの読書活動支援センターや読み聞かせボランティアによる学校への出張おはなし会の開催	図書館（子どもの読書活動支援センター）	・「上尾おはなしの会」によるおはなし会 7校 147クラス 4,104人 ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」による科学絵本の読み聞かせ・科学遊び 7校 24クラス 465人 ・学校図書館支援員と支援センター職員によるブックトーク 1校 3クラス 117人	・「上尾おはなしの会」によるおはなし会 6校 139クラス 3,899人 ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」による科学絵本の読み聞かせ・科学遊び 5校 469人	・「上尾おはなしの会」によるおはなし会 延べ7校 119クラス 3,245人 ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」による科学絵本の読み聞かせ・科学遊び 6校 370人	学校の要望に応じられるよう、読み聞かせボランティアの育成に努める。
				読み聞かせボランティア	・「上尾おはなしの会」のおはなし会 7校 147クラス ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」の科学絵本の読み聞かせ 7校 24クラス	・「上尾おはなしの会」によるおはなし会 6校 139クラス 3,899人 ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」による科学絵本の読み聞かせ・科学遊び 5校 469人	・「上尾おはなしの会」によるおはなし会 延べ7校 119クラス 3,245人 ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」による科学絵本の読み聞かせ・科学遊び 6校 370人	引き続き、学校でのおはなし会を行い、「読書パスポート」活用に協力する。
				学校	引き続き、計画に基づいて実施することができた。	・計画に基づいて実施した。	計画に基づいて実施することができた。	今後も継続して実施する。
		学校図書館	引き続き、「読書パスポートコンクール」については各学校に周知され、長期休業中などを活用して参加が見られた。全小学校から推薦された優秀な作品を表彰した。	・読書パスポートコンクールを各学校に周知し、取組が行われた。	「読書パスポートコンクール」は各学校に周知され、取組が行われた。	継続して事業の円滑な運用を促す。		
		児童館	① 図書館・児童館・児童文庫などの読書イベントで未就学児に「えほんのきろく」を配布し、「ぶち宝島スタンプラリー」にスタンプを押す	・アップーランドとこどもの城では、青少年育成推進員によるおはなし会を実施している。 ・アップーランドでは、おひさま文庫によるおはなし会、こどもの城では、読み語りの城を実施している。	・アップーランドとこどもの城では青少年育成推進員によるおはなし会を実施した。 ・アップーランドでは、おひさま文庫によるおはなし会、こどもの城では読み語りの城を実施した。	・アップーランドとこどもの城では、青少年育成推進員によるおはなし会を実施した。 ・アップーランドではおひさま文庫によるおはなし会、こどもの城では読み語りの城を実施した。	次年度も継続する。	
		図書館（子どもの読書活動支援センター）	① 図書館・児童館・児童文庫などの読書イベントで未就学児に「えほんのきろく」を配布し、「ぶち宝島スタンプラリー」にスタンプを押す	読み聞かせや読書イベント等で、「えほんのきろく」を配布し活用を促し、また「えほんであそぼ！」を紹介し、保護者への啓発活動をした。 「えほんの記録」配布数 400冊	・読み聞かせや読書イベント等で、えほんのきろくを配布し活用を促した。 ・えほんであそぼ！を紹介し、保護者への啓発活動をした。 【実績】 えほんの記録配布数 1,000冊	読み聞かせや読書イベント等で、「えほんのきろく」を配布し活用を促した。また、「えほんであそぼ！」を紹介し、保護者への啓発活動をした。 「えほんの記録」配布数 1,000冊	「えほんのきろく」「読書パスポート」が、多くの場所で活用できるように、読書イベントを増やしていく。	
	ポラミアンティイセ	① 「えほんのきろく」を活用し、幼い時期から読書に親しむ習慣をつける	スタンプを押印している。	・読書イベントに協力し、スタンプを押印した。	・おはなし会の際には、スタンプを押印した。	引き続き、事業に協力していく。		
	児童文庫	① 「えほんのきろく」を活用し、幼い時期から読書に親しむ習慣をつける	スタンプを押印している。	・読書イベントに協力し、スタンプを押印した。	・おはなし会の際には、スタンプを押印した。	引き続き、事業に協力していく。		
	児童館	② 図書館のおはなし会や地域のおはなし会で「えほんであそぼ！」の絵本を紹介する	未実施	未実施	未実施	絵本の紹介をする。		
	図書館（子どもの読書活動支援センター）	② 図書館のおはなし会や地域のおはなし会で「えほんであそぼ！」の絵本を紹介する	引き続き、保健センターで行っている「おやこでえほんサロン」で、冊子を配布し良い絵本と出あえる機会を作った。	・引き続き、おやこでえほんサロンで、冊子を配布し、よい絵本と出あえる機会を作った。	引き続き、「おやこでえほんサロン」で、冊子を配布し、よい絵本と出あえる機会を作った。	良い絵本の展示し、PRIに努めたい。		

第3章 情報提供の充実

	取組	目標	施策	主体	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
					実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	今後の課題・方向性	
1	各種パンフレット	「赤ちゃんといっしょに絵本をたのしもうーブックスタートあげおー」 「このえほんたのしいよ!!」 「よんでごらん」 「おはなし会・えほんのじかん市内一覧」 「こどもしつだより」 「Next Generation」	子どもと本を結び付けるため図書館が薦める図書情報を発信する	① ブックリストの内容を見直したり新たな資料を加えたり内容を更新する	図書館	「こどもしつだより」など過年度と重ならないようにテーマを決めるように努めた。 「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。 「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。	「こどもしつだより」など過年度と重ならないようにテーマを決めるように努めた。 「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。 「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。 ・年4回「Next Generation」を発行し新鮮な切り口のテーマで、幅広い分野から資料を集めるよう心掛けた。	「こどもしつだより」など過年度と重ならないようにテーマを決めるように努めた。 「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。 「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。 ・年4回Next Generationを発行した。新鮮な切り口のテーマで、幅広い分野から資料を集めるよう心掛けた。	「こどもしつだより」など過年度と重ならないようにテーマを決めるように努めた。 「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。 「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。 ・年2回「Next Generation」を発行した。新鮮な切り口のテーマで、幅広い分野から資料を集めるよう心掛けた。	次年度も継続するし、良い本を紹介する。
2	市広報紙	「図書館へようこそ」のページの中でさまざまな情報を発信することで、図書館を中心に展開される活動への認知度を上げる	「図書館へようこそ」の中で紹介する子ども対象のイベントの告知を魅力的なものにする 「子ども読書活動支援センター あっぴい ぶっくる」のコーナーでは、特に子供対象のイベントやボランティア活動情報を掲載し、子どもを取り巻くさまざまな読書活動の状況を市民が把握しやすくする	①	図書館（子どもの読書活動支援センター）	「子ども読書活動支援センター あっぴい ぶっくる」のコーナーが市民に周知され、主催講座の申し込みが増えた。 講座参加者アンケートのうち、講座を知ったきっかけを「広報あげお」と答えた人の割合47.0%	「子ども読書活動支援センター あっぴい ぶっくる」のコーナーが市民に周知され、主催する講座の情報発信を行った。	「子ども読書活動支援センター あっぴい ぶっくる」のコーナーが市民に周知され、主催する講座の情報発信を行った。	「子ども読書活動支援センター あっぴい ぶっくる」のコーナーが市民に周知され、主催する講座の情報発信を行った。	引き続き、魅力ある広報紙づくりにつとめる。
3	図書館ホームページ	子どもの視点に立った図書館ホームページの充実	子どもが自ら閲覧、活用できるような仕組みを図書館ホームページ機能に追加することを検討する	①	図書館（子どもの読書活動支援センター）	図書館ホームページ内にある「子どものページ」の内容を追加し、youtubeに乗せた子どもの読書活動推進テーマ曲へのリンクページを作成した。	引き続き、ホームページ内の「こどものページ」の活用を図った。	引き続き、ホームページ内の「こどものページ」の活用を図った。	引き続き、ホームページ内の「こどものページ」の充実を図った。	引き続き、ホームページ内の「こどものページ」の充実を図ると共に郷土資料のデジタル化の活用を図っていく。
4	「読み聞かせのまちあげお 上尾市図書館」フェイスブック	より市民に身近な、地域からの情報を収集し、タイムリーに発信する	「(仮称)子ども読書活動推進連絡会」「(仮称)図書館・学校・学校図書館連絡会」「読み聞かせボランティア連絡会」などを通して情報収集に努める	①	図書館（子どもの読書活動支援センター）	ボランティア連絡会で、地域の情報の収集を行い、フェイスブックに掲載した。	ボランティア連絡会で、地域の情報の収集を行い、フェイスブックに掲載した。	・ボランティア連絡会以外の連絡会は未設置	・ボランティア会議は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になった。	教育総務課・指導課と連携し、情報を共有する。
5	「子どもの読書活動支援センター」ツイッター	読書活動推進に有用な、魅力ある情報を提供する	支援センターの講座などを通し、魅力ある情報を親しみやすい文体で提供する	①	図書館（子どもの読書活動支援センター）	ツイッターにより、講座や本の情報など多くの情報を発信している。 フォロワー数 1,248人	ツイッターにより、講座や本の情報など多くの情報を発信している。 フォロワー数 1,900人	・ツイッターは、講座や本の情報をすぐに提供できる手段であり、多くの情報を発信した。 【実績】 フォロワー数 1,431人	ツイッターは、講座や本の情報を即時に提供できる手段である。多くの情報を発信している。 フォロワー数 1,467人	講座などの情報に加え、読書に関するより身近な情報を発信していく。